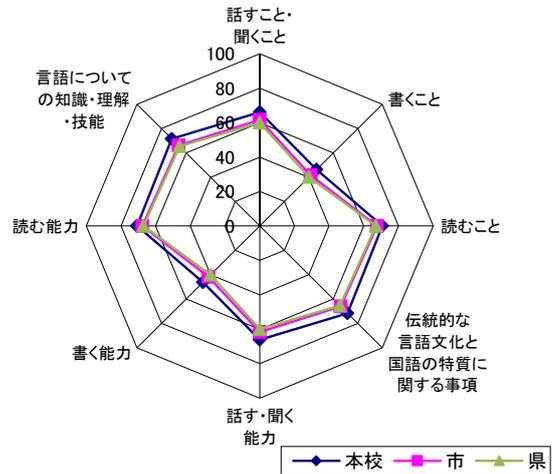


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.1	61.6	59.9
	書くこと	46.3	41.7	40.1
	読むこと	70.7	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	66.1	61.6	59.9
	書く能力	46.3	41.7	40.1
	読む能力	70.7	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	71.6	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○県や市の正答率を4.5～6%上回る結果であった。特に、「事実と意見との関係に注意して話を構成する」では、県が12.5%、市が14.9%、本校が28.1%で、県や市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●「相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる」に関しては、県や市の正答率を3%ほど下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手の話をしっかりと聞き、適切な理解ができるような姿勢を身につけさせる。 ・相手の話を踏まえたうえで、自分の考えを形成し、まとめるという指導・活動を授業の中に取り入れる。 ・グループにおける話し合い活動を必要に応じて授業に取り入れ、話したり聞いたりする機会を増やす。
書くこと	<p>○県や市の正答率を1～2%上回る結果であった。特に、「カードを基に、考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く」や「カードを整理し、文章の構成を考えて鑑賞文を書く」など、選択式の問題形式では、県や市の正答率を5～9%上回っている。</p> <p>●他領域に比べて正答率が20%以上低い。記述式の問題に関して、「カードを基に、前につながる形で言葉を書く」では12.0%、「友達の意見を参考に、鑑賞文の最後の段落を書き直す」では34.7%など、県や市とともに低い正答率が目立った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題にあきらめずに取り組む姿勢を身につけさせる。 ・自分の考えや思いを、授業はもちろん日常生活においても文章で書き表すことを指導していく。また、教科の垣根を越え、他教科や道徳、総合の時間でも、自分の考えを文章で表現する学習活動を積極的に取り入れる。
読むこと	<p>○県や市の正答率を3%程度上回る結果であった。特に、「文中の語句が指す内容を捉える」や「場面の展開を基に、登場人物の心情を捉える」では、90%近い正答率であった。</p> <p>●「文章中の空欄に入る接続語を選ぶ」では県や市の正答率を2%ほど下回っている。「描写や会話文をもとに、登場人物の心情の変化を捉える」の記述式問題に関しては、県や市とともに30%程度で、正答率が低い傾向が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語や表現など、読解における技術的な内容も指導していく。 ・文章を基に、登場人物の心情や人物像、筆者の考えを読み取ることを不得意としている生徒が多いため、授業等を通して重点的に指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○県や市の正答率を5～6%上回る結果であった。すべての問題において、県と市の正答率を上回っている。特に、「漢字の読み」では、3問中2問が90%を超えており、高い正答率が見られた。残りの1問も82%は正答している。</p> <p>●「漢字の成り立ち」に関しては、正答率が、県が43.4%、市が42.5%、本校が43.7%で、全体的に50%を下回る低い傾向が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習した漢字の読み書きを授業の中で適宜確認する。また、新出漢字も漢字テストを行ったり、書き順・部首を確認したりするなどして、丁寧に指導していく。 ・古典教材の学習においては、音読を重視し、歴史的仮名遣いをきちんと習得させる指導を行う。 ・文字や言葉に対する興味・関心を持たせるように授業を工夫する。